

＜めあて＞ 加法と減法の混じった式を工夫して計算する方法を考えよう。



加法と減法が混じった計算では、加法の交換法則や結合法則が使えないね。
加法と減法が混じった計算は、工夫して計算できないのかな？

$$\begin{aligned} & (+7) - (+2) + (-8) - (-4) \\ & = (+7) + (-2) + (-8) + (+4) \end{aligned}$$

減法は加法に直せる。

減法は加法に直すことができるので、加法だけの式に直せば、加法の交換法則や結合法則が使えるようになります。



加法の交換法則、結合法則が使える！

加法だけの式で…

$$\begin{aligned} & (+7) + (-2) + (-8) + (+4) \\ & = +7 - 2 - 8 + 4 \\ & = 7 + 4 - 2 - 8 \\ & = 11 - 10 \\ & = 1 \end{aligned}$$

+(たす)を省略する

先頭が正の項の時は+(プラス)を省略する

交換法則

結合法則

+は省略でOK

$$(+7) + (-2) + (-8) + (+4)$$

加法の記号+で結ばれた数を項という。

+7、+4…正の項
-2、-8…負の項

加法だけの式では、加法の記号+(たす)を省略して、項を並べた式とみることができます。



加法と減法が混じった計算は、項を並べた式とみることによって、加法の交換法則や結合法則が自由に使えるんだね。

例 項だけを並べた式にして計算しよう

$$\begin{aligned} & (-4) - (-12) + (-5) - 6 \\ & = (-4) + (+12) + (-5) - 6 \\ & = -4 + 12 - 5 - 6 \\ & = 12 - 4 - 5 - 6 \\ & = -3 \end{aligned}$$

＜まとめ＞ 正の数、負の数の加法と減法が混じった式は、加法だけの式に直すことで工夫して計算することができる。

加法だけの式は、+(たす)を省略し、項を並べた式として表すことができる。